

作業班中間報告書（その2）において検討未了とされ、
かつ、委員会において検討すべきとされた事項について

(1) 自営通信グループ

所要周波数帯幅の妥当性に関する更なる検討。

なお、検討に当たっては、同一システムで複数機関が別々の帯域を使用して情報のやりとりを行うだけでなく、非常時等における災害情報等について関係機関が同一周波数帯を共有して活用するなどの流れる情報の共有の観点からの周波数有効利用方策についても十分に考慮すること。

(2) 放送グループ

第6回作業班において発言のあった、「委員会の前提条件であるVHF ローバンドについては、携帯受信を考慮した場合アンテナが大型化し、放送受信機に適さないのではないか。」との意見の取扱い。

(3) ITSグループ

通信方式において、CSMA方式ではなくスロットアロハ方式を使用する等スループットの向上についての検討。

(4) 電気通信グループ

個別検討事項は無し。

今後の検討スケジュール（案）

MIC

平成19年（2007年） 「VHF/UHF帯における電波の有効利用のための技術的条件」の検討

